



# かわい



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/>

## 「継続」こそ力なり

校長 窪田 剛久

この夏、「過去最多」という言葉を何度耳にしたでしょうか。日々更新される感染者数。とうとう神奈川県が東京を上回る日まで出てきました。まさに「災害」級の事態が日本全土を覆いつくしています。学校としても教育委員会の指示に従い、誠に残念ではありますが、行事の見直し等、レベルを上げた感染対策をとらざるを得ないと考えています。しかし、そういった暗いニュースばかりではありませんで



した。1年延期されて開催された「Tokyo 2020」では、日本のメダル獲得数が「過去最多」となり、多くの感動が全世界の人々を勇気づけたのではないかと思います。延期されてから1年間、選手たちは様々な思いを胸に秘めながら、こつこつと練習を積み重ねてきたのではないのでしょうか。そのひたむきな努力の継続が成果となり、見事なパフォーマンスを披露してくれました。今回の観戦はステイホームでしたが、一生の記憶として心に深く刻んだ子ども達もたくさんいたと思います。あきらめず、粘り強く、そして継続して続けていくことの尊さを改めて実感させられました。

話は変わりますが、「子どもには望むべき生き方を選んでほしい」という思いを抱いたことは、ほとんどの方にあるのではないのでしょうか。私もそのような思いを抱いたり、自分の親から感じたりしたことがあります。大人はそういったとき、こういう言葉を使うことがあります。「だれにも負けないと言えることを、一つでもいいから身につけなさい。」子どもにとっては、励みになる言葉なのかもしれません。ただ、ふと思えます。「自分に、だれにも負けないと言える何かが身についているだろうか。」人より優れたものを身につけるのは、かなり難しいことではないのでしょうか。

ここで考えたいのは、「人より優れた何か」を身に付ける発想から抜け出せないかということです。人より優れることを求めるのではなく、「自分を成長し続けられる力」を身に着けることは、大きな生きがいになります。そして、成長を持続することが個性の一部を形づくり、その人らしさになっていくと思います。まさに生涯学習です。「成長し続けること」こそ、人生にとって大きな価値になるのではないのでしょうか。

昨年度朝会で、大人になった自分を想像するより、来年どんな自分でいたいのか。来月、来週、明日はどんな自分でいたいのかを考えてみよう、という話をしたのを思い出します。遠い未来を想像することも大事ですが、短いスパンで目標を立て、スモールステップで成長を積み重ねることが「今を生きる」ことだと子ども達に伝えました。できないことができるようになること。分からなかったことが分かるようになること。そういった積み重ねが子ども自ら成長を実感することにつながります。そして、その実感を原動力として、成長を「継続」すること。それこそが「生きる力」ではないのでしょうか。人と比べるのではなく、自身を成長させ続ける、そういった力を子どもには身につけさせたいと思います。「Tokyo 2020」のオリンピックの中にも、人との勝負より自分との闘い、自身の成長に集中していた素晴らしい選手がたくさんいたなと思います。

本校では、昨年度まで横浜市指定の幼保小連携事業という形で、川井宿保育園と連携を図ってきました。今は感染症対策でできませんが、今後も連携事業で培った土壌を生かし、交流は続けていきます。また隣の都岡中学校とも連携し、職場体験で中学生を受け入れたり、合唱祭へ参加させていただいたり、部活動体験を行っていただいたりしています。小中連携が重要視されて久しくなりましたが、川井小には、幼保・小・中と継続して学び、成長できる環境が揃っていると言ってもいいかもしれません。この環境を大切に、多くの子どもたちが成長し続けられる川井小を目指していきたいと思います。一人一人が「生きる力」を身に着けていけるように、感染症対策と両立しつつ、職員一同アイデアを出し合い工夫して学校運営にあたっていきます。今後ともご理解とご協力、よろしくお願いたします。